

提言

きちんと総裁選をおこない 安倍政権の勤務評定をするべき。

本誌主幹 大中吉一

何回も申し上げているが、森友問題も、加計学園の問題も、スーパーコンピューターの疑惑も、何ら詳らかにされぬまま延長国会が終了した。そして自民党の総裁選挙である。現時点では立候補者もはっきりしていないが、是非とも複数の候補者を立て、総裁選をやるべきである。その中で、安倍政権6年間の成績をきちんと評価し、自民党自らが安倍政権に対する総チェックをやるべきである。

この国のリーダーを含め、国会議員になった以上は、せめてこの国の安心・安全・安泰、この国のかたちと行方をきちんと勉強した上で国会の場に参上していただきたいし、多くの議員諸君はそうしてくれていると思う。そうすることによって活性化した国会の審議も起こるし、安倍首相も衆参両院の議員諸君に対してきちんと説明責任を果たし、その上で総裁選を戦っていただきたい。そうすれば、この国の安心・安全・安泰をいかに担保できるのかが見えてくるはずである。

6月から7月にかけて発生した西日本豪雨では、山口、岡山、倉敷、広島、愛媛など、広範囲の地域で大きな水害の被害が出た。しかしながらこれは天災ではなく人災である。200人以上の方がなくなり、大勢の行方不明者、そして怪我をされた方が居り、さらに膨大な数の避難者が発生している。

そんな最中に、安倍晋三首相・自民党総裁は赤坂自民亭において宴席に出席していたというのは、もはやみっともないほどの危機管理能力のなさである。

赤坂自民亭の行われた7月5日の早い時点で、気象庁は今回の暴雨は尋常ではない激しさであり、記録的な大雨となり得ることから厳重な警戒が必要だという警報を出していたにも関わらず、安倍内閣の陣営はなぜその日の夜に自民亭を開催したのか。本来ならば総理として、国民の安心・安全にきちんと配慮し、防災に対してのチェックを行わなければならなかつたはずである。

この例だけでなく、一事が万事、あらゆることがきちんとチェックされていないのは恥ずべきことである。

繰り返すが、森友問題も、加計学園の問題も、スーパーコンピューターの疑惑も、せっかく延長した国会の場できちんとチェックされることもなく、延長国会は終了してしまった。

これでは国民がかわいそうである。自民党員はせっかく党費を払って3年に1回の総裁選の投票権を持っているわけであり、今こそその票を生かし、この国の方針を示すリーダーが出てくるよう、きちんと総裁選を実行しなければならない。

心ある対立候補が立ち、この国の安心・安全・安泰、この国のかたちと行方をきちんと指示した上で、安倍政権の6年間の勤務評定を行っていただきたい。

自民党員諸君の民主主義に対する真摯な態度と、複数の候補による安倍政権6年間の成績評価が、筋の通った議論の上に総裁選が行われることを望みたい。

Kōron